



4/18・19
SAT SUN

第22回ぎょうだ蔵めぐりまちあるき

足袋蔵などの日本遺産構成文化財の建物を歩きながら巡る「第22回ぎょうだ蔵めぐりまち歩き」が開催されました。

当日は、スタンプラリーや普段非公開の足袋蔵見学に加えて、ボンネットバスによるガイドツアー、人力車乗車体験などが行われました。

参加者たちは当時の面影が残る行田の街並みを歩きながら、当時の産業やものづくりに思いを馳せていました。



4/26
SUN

春季剣道大会

グリーンアリーナで第139回行田市春季剣道大会が開催され、出場した選手らが日頃の練習の成果を発揮しました。

当日は5つの部に計137チームが参加。会場には優勝を目指す選手らの竹刀がぶつかり合う軽快な音が響き渡りました。また、試合の前後には、選手同士が深く礼を交わり、勝敗を超えて相手を敬うなど、剣道が大切にされる礼節を重んじる姿が見られました。



5/2
SAT

ホタル放流会

古代蓮の里ホタルの川でホタル放流会が開催され、約3,000匹の幼虫が川に放たれました。当日は雲一つない青空の下、約40人の親子連れが参加。放流会の他、ホタルの紙芝居鑑賞や歌の合唱が行われました。

放流会では、幼虫の入った紙コップを渡された子どもたちが興味深そうに中をのぞき込んでいました。そして、夏の夜にしか見ることのできない、ホタルの優しくはかない光のひとつときを楽しみに、思い思いの場所で放流していました。



5/4
MON

第41回さきたま火祭り

強い風が吹き抜ける中、「第41回さきたま火祭り」がさきたま古墳公園で開催されました。開催が危ぶまれる場面もありましたが、関係者の尽力と安全対策のもと、無事に祭りの灯がともされました。

古代衣装をまとった一行が松明を掲げて練り歩くと、会場一帯は炎の揺らぎに照らし出され、神話の世界を思わせる幻想的な光景が広がりました。神話に基づき、ニギノミコとコノハナサクヤヒメにより産屋に火が放たれると、祭りは最高潮へ。夜風にあおられながらも燃え続ける炎が、受け継がれる伝統の力強さを印象づけ、訪れた来場者は歴史の息吹を感じながら、その光景に見入っていました。

また、11月7日～10日に県内各地で開催される「ねんりんピック彩の国さいたま2026」の炬火のお披露目も行われました。

採火された火は、ねんりんピック彩の国さいたま2026実行委員会会長を務める大野元裕埼玉県知事へ手渡され、その炬火が来場者の前で高く掲げられました。



動画はこちらから